

令和元年度実施行政評価

外部評価結果報告書

令和元年 9 月

三田市行政評価委員会

目 次

第1章 実施概要	1
1 外部評価の趣旨		
2 実施日程		
3 評価の対象		
4 実施方法		
5 評価の観点等		
6 評価者（三田市行政評価委員会）		
第2章 評価の総括意見	4
第3章 対象施策の評価結果		
「1-2 人権尊重のまちづくり」	5
「2-5 地域医療」	7
「2-10 良好な住まい」	9
「2-14 循環型社会」	11
「2-15 低炭素社会」	13
「2-20 スポーツ・レクリエーション」	15

第1章 実施概要

1 外部評価の趣旨

三田市行政評価条例（平成27年三田市条例第28号。以下「条例」という）では、総合計画に基づく戦略的な行政運営を図るとともに、市民の目線に立った効率的で質の高い市政を推進し、市民満足度の向上を図ることを目的として、行政評価を実施することとしている。

また、条例では、市が毎年度策定する行政評価計画に基づいて行政評価を実施し、特に重要な対象については条例第5条第3項に基づく内部評価の検証（＝外部評価）を行うことを定めている。

当委員会は、これらの規定に基づいて外部評価を実施し、その結果を本報告書にまとめた。

2 実施日程

令和元年度の三田市行政評価委員会は、以下の日程及び内容により開催した。

会議	開催日	会場	開催内容
第1回委員会	7月25日（木）	三田市役所	外部評価（1日目） 「1-2 人権尊重のまちづくり」 「2-5 地域医療」
第2回委員会	8月1日（木）	三田市役所	外部評価（2日目） 「2-10 良好な住まい」 「2-14 循環型社会」 「2-15 低炭素社会」 「2-20 スポーツ・レクリエーション」
第3回委員会	8月20日（火）	三田市役所	評価のとりまとめ

3 評価の対象

行政評価は、総合計画に基づくまちづくりの点検や見直しに役立てるため、第4次三田市総合計画後期基本計画に定める30施策を単位として実施している。

このうち、外部評価の対象は、担当部署の偏り等を勘案しつつ、6施策を選定して外部評価の対象とした。

4 実施方法

外部評価は、市が取りまとめた「令和元年度実施 行政評価(内部評価)」の評価調書

を基礎資料とし、当該施策を構成する事務事業の一覧として整理した附属資料も必要に応じて参照しながら担当部署へのヒアリングを行う方法により実施した。

ヒアリングは、施策当たりの配分時間を概ね 35 分間とし、冒頭に所管部署からの説明を受けたのち質疑応答を行った。

【評価に用いた資料】

- ・令和元年度実施 行政評価（内部評価）調書
- ・令和元年度行政評価調書附属 対象事務事業一覧表
- ・質疑回答（事前連絡分）一覧

【ヒアリング出席者】

- ・対象施策の所管室及び関連室より室長・次長、課長
- ・事務局である市長公室長及び政策課長以下担当職員

5 評価の観点等

施策のPDCA（計画－実行－点検－改善）の各段階における検証を、効率的に行うため、評価の観点等を評価用チェックシートに例示し、外部評価の参考とした。

【施策評価チェックシートの観点等】

P 及び D (計画、実行)	総合計画後期計画の実現に向けて適切な方法がとられてきたか ・計画の記載事項に照らして、手段の組み合わせは最適だったか ・欠けている手段や発想はなかったか
C (点検)	施策課題の認識は適切か ・見逃されている、過小評価されている課題はないか ・指標等を正しく分析しているか、違和感のある分析はないか
A (改善)	今後の展開方向は適切か ・本市の特性や状況に応じた対応策としているか ・評価を踏まえた重点化を図ろうとしているか

6 評価者

第4次三田市総合計画後期基本計画（平成29年度～）は、三田版総合戦略（三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略。以下「総合戦略」という）を反映して策定されているため、両者の施策や事業は多くの部分において共通する。したがって、行政評価の実施は、結果として総合戦略の効果検証の実施の意味合いも持つ。

国では、地方版総合戦略の検証等について多分野（産業界・関係行政・学術研究機関・金融界・労働界・マスコミなど「産官学金労言等」）の参画を求めていることから、こ

の指針に対応するよう、下記10名の委員による審議を実施している。(任期2年)

令和元年度三田市行政評価委員会 委員名簿
(任期：令和元年7月1日～令和3年6月30日)

No.	区分	氏名	所属等
1	産業界	松原 正武	三田市商工会 会長
2		小田嶋 巖	テクノパーク企業協議会 副会長
3	行政機関	梶本 修子	兵庫県阪神北県民局 副局長
4	教育機関	◎北原 鉄也	関西学院大学総合政策学部 教授
5		○赤澤 宏樹	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授 兵庫県立人と自然の博物館自然・環境マネジメント研究部長
6		田邊 哲雄	湊川短期大学幼児教育保育学科 教授
7	金融機関	篠田 保之	池田泉州銀行三田支店 支店長
8	労働団体	浅居 繁樹	連合兵庫 北阪神地域協議会 三田地区連絡会会長
9	メディア	井上 隆	神戸新聞北摂総局 総局長
10	市民活動	清水 浩一	三田市市民活動推進プラザ 施設長 (一般社団法人アスパラガス代表)

順不同、敬称略。 なお、「◎」委員長、「○」副委員長

第2章 評価の総括意見

三田市においては、平成27年度に新たに外部評価を取り入れて行政評価制度を刷新し、行政評価の手法と実践の改善等を重ねてきた。また、市の第4次総合計画が改定され「後期基本計画」としてスタートしたことを受け、行政評価の施策体系についても後期基本計画に基づいて再設定するとともに、より分かりやすい行政評価の実施や公表を図ってきたところである。

ここでは、今年度、評価の対象とした6施策について総括的な評価や意見を示すとともに、行政評価制度の全体に関係する運用上の課題について制度の趣旨を踏まえ見解を示す。

まず、今回外部評価において対象とした6施策について、総じて総合計画の実現に向けて着実に計画、実施がなされ、相応の成果を上げてきていると評価できる。特に、「地域医療」、「人権尊重のまちづくり」、「スポーツ・レクリエーション」、「良好な住まい」においては、市が直接に実施して成果を上げることができる領域（住宅の耐震化に対する支援体制など）において、計画以上に、あるいは多彩に実績をあげている。ただし、6施策それぞれ、今後現れてくる、あるいは深刻化する新しい状況に対応すべく施策課題の認識を深め、これからの施策展開においては独自の施策の改善や工夫、持続可能な展望が求められていると考える。

近年の行政施策には、市民や企業、NPO等の参画、協力、関与あつてはじめて効果的な成果をあげることができる施策が多いが、その点で今回評価した施策すべてにおいて行政側からの取り組みとしてさらに留意し、積極的な関わりを持つことが必要であると考え。特に、新興の政策分野である「循環型社会」や「低炭素社会」においてさらなる具体的な施策の展開が望まれる。

なお、6施策に対する個別の評価の詳細については、次の第3章にあるとおりである。

前年度から行政評価（内部評価）調書の様式が大幅に変更された。従前の実施内容すべてを総花的に網羅する記述から、重点事項などポイントを絞った記述へと転換され、これにより情報にメリハリを持たせるなど、質・量ともに改善が試みられた。ただし、市の取り組み項目に対する成果の明記など、さらにその作成に関し改善の余地が残されており、附属資料の事務事業一覧表を含め、今後も必要に応じて改善を加え、さらなる充実に努めることが求められる。

なお、昨年度は実施されていなかった総合計画に関わる市民意識調査（各施策に関する市民の満足度と重要度認識）が実施され、今後評価において利用可能であることを付け加えておきたい。評価制度の目的として「市民満足度の向上」が掲げられていることもあり、その種の市民意識・認識を評価に利用できることが望まれる。

第3章 対象施策の評価結果

取組番号	1-2	取組名	人権尊重のまちづくり
------	-----	-----	------------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(平成30年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	お互いが人権を尊重しあうまちをつくりましょう			①障害者差別の解消の推進(605) ②性的マイノリティ相談の充実(390) ③部落差別の解消の推進(240)	①条例施行の周知及び障害の理解啓発 ・周知方法2種類→4種類 理解啓発方法2種類→8種類 (達成度)リーフレット作成や市広報紙に加え、市政出前講座、コミュニティFM、市民講座、市職員研修などの機会を活用し、広く周知を図ることができた。 ②「性的マイノリティ特設電話相談事業」を開始した。 ・相談件数 8件 (達成度)自身の「性」のあり方に生きづらさを抱えている人が、同じ立場の当事者に直接悩みを相談できる環境を整備することができた。 ③「インターネット差別書込みモニタリング事業」を開始 ・モニタリング実施回数 週2回 削除要請件数 5件 (達成度)悪質な書き込みに対し削除要請を行うなど、早期発見・拡散防止に取り組むことができた。
対象経費 人件費除く :百万円	H29 予算	H30 予算	R元 予算		
	27	23	22		
施策関連 部課等	[福祉共生部共生社会推進室] 人権推進課、いきいき高齢者支援課、障害福祉課 子ども・未来部子ども家庭課 地域創生部まちづくり協働センター、市民課、経営管理部人事課				

成果指標等の推移 (進捗区分:◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)							成果を踏まえた重点課題等 (令和元年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和元年度 予算対応済 内容(千円)
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	目標 R3	進捗		
1 人権問題の解決に向けて「社会全体で取り組み、自分も努力するべきだと思ふ」市民の割合	79.6% (H28)	79.6%	79.3%	85.1%	80.0%	◎	【重点課題】 障害者差別解消の推進 【詳細説明】 ・障害を理由とする差別に関する相談窓口の周知を行うとともに、相談事案に対応することで差別の解消を図る。 ・障害についての正しい知識の普及と合理的配慮の浸透を図るため、職員に対する研修や市民への啓発講座等を実施する。 【その他の課題】 ・市民人権意識の実態に基づく施策の展開	障害者差別解消推進事業費(605) 人権を考える市民のつどい開催費(852) 人権研修講座開催事業費(1,746)
2 市の管理職の女性比率(消防及び市民病院を除く。)	12.0%	13.1%	16.4%	14.5%	15.0%	△		
3 市ホームページの外国語ページのアクセス数	945回	2,615回	1,375回	1,718回	1,000回	◎		
4								
5								

2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 総合計画に沿って総合的、網羅的に取り組みされていることや、「障害者共生条例の制定」「性的マイノリティ相談の実施」「インターネット差別書込みモニタリング事業」といった先導的事業に積極的に取り組みされていることは大きく評価できる。
- ② 本施策には市民や民間の協力・理解が必要であるため、総じてその実績や効果が十分に見えにくい。どの主体が何を取り組み、どのような成果や効果を上げているかを把握していく必要がある。
- ③ 外国人労働者の受け入れが進む中、市内の具体的な動向を収集し、生活支援等の取り組みについて、民間事業者や各種団体との連携による対応を進める必要がある。

3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 市ホームページの多言語化は、民間の自動翻訳サービスを介して提供されているが、画像化されている情報で翻訳されていない箇所がある。市民の安全安心に関わる重要な情報に関しては、多言語化するよう努めていただきたい。
- (ii) 三田市の未来に向けて、三田の若者や子どもたちの期待に沿うような姉妹都市交流のあり方を検討することも必要ではないか。
- (iii) 障害者差別の相談窓口の周知とその対応は、障害者差別解消推進施策として適切と考える。障害の特性等正しい知識習得の機会を増やしていただくことを期待する。
- (iv) 現在設定されている成果指標のあり方について、次期総合計画改定時に検討いただきたい。
 - ・女性管理職比率に関する目標値の上方改定
 - ・人権の相談件数に関する目標値の設定

取組番号	2-5	取組名	地域医療
------	-----	-----	------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(平成30年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	救急体制の整った、安心して医療の受けられるまちにしましょう			①小児救急医療の安定化(60,325) ②市民病院の充実 ③救命・応急手当技術向上等(277)	①三田市休日応急診療センターの安定的な運営を図った。 ・開設計画日数73日 →実績73日 ・小児科医の配置計画日数69日 →実績69日 (達成度)計画どおり実施できた。 ②「断らない救急」と「稼働率の向上」を重点に取り組んだ。 ・救急車搬送数 計画2,846件 →実績3,533件 ・病床稼働率 計画81.4% →実績81.7% (達成度)計画を上回り実施できた。 ③従来の救命講習に加え、小学生にも救命講習を開催し、幅広い年齢層に救急車到着までの応急手当の重要性を啓発した。 ・小学5年生を対象に2校で開催。 (達成度)救急現場での心肺蘇生の実施率は前年より8.2%減少した。講習の啓発に加え、通報時の口頭による応急手当の指導を充実させる必要がある。
対象経費 人件費除く :百万円	H29 予算	H30 予算	R元 予算		
	2,259	2,391	2,299		
施策関連 部課等	[福祉共生部健康推進室] 健康増進課、市長公室市民病院改革プラン推進課、消防本部、市民病院				

成果指標等の推移							成果を踏まえた重点課題等 (令和元年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和元年度 予算対応済 内容(千円)
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)								
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	目標 R3	進捗		
1 かかりつけ医を持つ人の割合	65.2% (H28)	65.2%	60.0%	58.3%	67.0%	△	【重点課題】 市民病院の経営の安定化及び急性期医療の確保 【詳細説明】 ・市民病院が保有する地域の基幹的急性期機能を将来に亘って安定的、永続的に維持する取組みとして、広域的な視野に立った再編・ネットワーク化を推進し、その仕組みづくりを進める。 【その他の課題】 ・生命を守るために行動できる救命意識の啓発	
2 市民病院の地域連携度(紹介率)	57.6%	63.9%	68.4%	71.6%	60.0%	○		
3 市民病院の地域連携度(逆紹介率)	92.4%	101.1%	103.3%	105.0%	95.0%	○		
4 市民病院の病床稼働率	74.2%	80.5%	83.8%	81.7%	84.5%	△		
5 救急隊到着前の心肺蘇生法実施率(実施数/心肺停止傷病者)	45.4%	54.4%	53.5%	45.3%	55.0%	△		

2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 小児救急医療については計画通り、安定的な運用がなされていると評価できる。また、市民病院は、「断らない救急」をはじめとした前向きな取り組みにより、地域連携度や病床稼働率等の成果指標は順調に推移しており、評価できる。
- ② 今後も市民病院の経営の安定化と地域の急性期医療の確保の観点から、業務従事者の働き方にも配慮しながら、地域医療連携の維持・向上や救急医療の充実に努め、地域の基幹病院として質の高い医療を提供いただきたい。

3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) かかりつけ医の普及状況や心肺蘇生法実施率などが停滞しているが、改めて現状と課題を検証し、施策の進め方を見直していただきたい。
- (ii) 救急の受け入れ増加は必要と考えるが、他市から相応の負担を求めることも含め、圏域として持続可能な体制の構築が求められるのではないかと。
- (iii) 児童への心肺蘇生講習は、将来的な人材育成にもつながり評価できる。
- (iv) 市の救急体制の充実に観点から、夜間救急の充実に図られたい。

取組番号	2-10	取組名	良好な住まい
------	------	-----	--------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(平成30年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	安心して健やかに生活できる居住環境を目指しましょう			①市営住宅の適切な管理、計画修繕の実施(82,045) ②耐震診断、改修の推進(10,727) ③住替え支援等による住宅ストックの利活用の推進(3,567)	①長寿命化計画に基づく外壁改修を実施した。 ・改修のべ棟数 計画4棟 →実績4棟 (達成度) 計画どおり改修が進んでいる。 ②耐震化に向けた啓発や支援体制の強化を図った。 ・簡易耐震診断件数 H29実績33件 →実績52件 (達成度) 庁舎ロビーでの無料相談会や戸建住宅へのポスティングの実施により診断件数も増加している。 ③住まいに関する情報提供や空き家バンク等による住宅ストックの利活用の推進を図った。 ・利用者登録数 83件、物件登録数 10件 (達成度) 空き家バンクの利用者登録数に比べ、物件登録数及び成約件数の伸びがやや鈍い。
対象経費 人件費除く :百万円	H29 予算	H30 予算	R元 予算		
	108	131	86		
施策関連 部課等	[まちの再生部都市政策室] 都市計画課、都市再生課、審査指導課				

成果指標等の推移								成果を踏まえた重点課題等 (令和元年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和元年度 予算対応済 内容(千円)
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)									
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	目標 R3	進捗			
1 三田市公営住宅等長寿命化計画に基づく改修棟数	1棟	2棟	3棟	4棟	7棟	○	【重点課題】 住宅ストックの利活用(空き家バンク制度等)の推進 【詳細説明】 ・バンク利用登録者は、増加しているが、バンクの利用者ニーズに合った物件の登録が少ないことから、物件の掘り起しと制度の周知、また、既存ストックの利活用の啓発を強化する必要がある。 【その他の課題】 ・旧耐震住宅所有者に対する啓発	マイホーム借上げ制度推進事業費(2,465) 住宅ストック利活用推進事業費(790)	
2 住宅の耐震化率	92.5%(H25)	93.0%	93.1%	93.3%	95.0%	○			
3 住まいの相談窓口の相談件数	42件(H26)	85件	195件	178件	55件	◎			
4 空き家バンクを利用し居住した世帯数	—	0世帯	5世帯	8世帯	25世帯	△			
5									
6									

2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 市営住宅の長寿命化等、市が直接的に関わる住宅政策については、計画どおり取り組みがなされており評価できる。
- ② 空き家対策として空き家バンクを実施されているが、指標の伸び悩みがみられる。地域の活性化に効果的な事業でもあることから、継続的な物件の掘り起しと、マッチング事例を用いたさらなる周知等、当制度の利活用を促進いただきたい。

3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 人口減少、高齢化の進展等に伴い、住宅ストックの利活用はますます重要な課題になると思われるため、実態調査を通じて把握された現状・課題を踏まえて、引き続き施策を充実し、展開していただきたい。
- (ii) 耐震化については、市民の安全安心のため着実に取り組み、耐震診断実施後の耐震化状況についても評価することを検討いただきたい。
- (iii) 公営住宅の長寿命化を進めるにあたっては、昨今のリノベーションの事例も参考に進めていただきたい。

取組番号	2-14	取組名	循環型社会
------	------	-----	-------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(平成30年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	限られた資源を未来に引き継ぐ循環型社会を実現しましょう			①新ごみ処理施設整備基本構想の策定 (2,989) ②一般廃棄物の3Rの推進 (16,502) ③家庭系一般廃棄物の減量化・資源化の推進 (590)	①基本構想検討委員会を開催し、施設整備の方向性について検討した。 ・検討委員会開催回数 計画3回 →実績3回 (達成度)計画どおり検討課題が整理できている。 ②再生資源集団回収運動への支援を行った。 ・再生資源集団回収団体数 計画90団体 →実績82団体 (達成度)目標値達成には継続した啓発活動が必要である。 ③施設見学により環境学習やごみの適正処理の知識を深めた。 ・出前講座によるクリーンセンターの施設見学会の開催 計画5回 →実績2回 ・こどもごみ減らし隊の大阪湾フェニックス見学参加人数 計画80人 →実績68人 (達成度)目標値達成には継続した啓発活動が必要である。
対象経費 人件費除く :百万円	H29 予算	H30 予算	R元 予算		
	1,222	1,118	1,144		
施策関連 部課等	[まちの再生部環境共生室] 環境創造課、クリーンセンター				

成果指標等の推移							成果を踏まえた重点課題等 (令和元年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和元年度 予算対応済 内容(千円)	
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)									
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	目標 R3	進捗	【重点課題】 新ごみ処理施設の整備 【詳細説明】 ・新ごみ処理施設について、環境に配慮した施設になるよう課題を整理するとともに、循環型社会の形成に向けて市民の理解が進むよう環境学習機能を備えた施設整備を進める。 【その他の課題】 ・食品ロス削減に向けた取り組みの推進 ・分別収集の拡充の検討	新ごみ処理施設整備基本構想策定業務 (1,977)	
1	ごみの再資源化率	31.1%	31.1% (H27)	31.2% (H28)	32.9% (H29)	36.0%			×
2	再生資源集団回収団体数	80 団体	81 団体	83 団体	82 団体	90 団体			△
3	1人1日当たり家庭系燃やすごみ量		482g	488g	478g	453g			○
4	1日当たり事業系燃やすごみ量		27.1t	25.8t	23.9t	26.3t			◎
5									
6									

2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① これまでの市の取り組みにより、事業系燃やすごみ等のごみ量の削減については一定程度実現しており評価できる。
- ② ごみ再資源化率や再生資源集団回収団体数等、市民一人ひとりの取り組みが求められる分野が低迷している。現状の取り組みに加え、市民生活で身近に取り組める方策の実施、また、市民への啓発や協働の取り組み等、より市民を巻き込んだ施策の実施に努められたい。

3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 社会の変化により、ごみの構成や収集・再資源化の方法も大きく変化してきており、指標の変更は現段階では困難と考えるが、実務的に進捗状況が適切に把握できるよう工夫の上、事業を着実に推進されたい。
- (ii) 新ごみ処理施設の整備は極めて重要な事案であり、市民意見の把握も努めながら、進めていただきたい。
- (iii) 今後、循環型社会の実現に向けて、他の自治体と横並びでない、市独自の特色ある取り組みがされることを期待したい。

取組番号	2-15	取組名	低炭素社会
------	------	-----	-------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(平成30年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	低炭素社会の実現を目指し、エネルギーの有効利用に取り組みましょう			①次世代自動車の普及促進(549) ②公用車の燃費向上に向けた取り組み ③地球温暖化防止に向けた啓発の強化	①EV・PHVの利用しやすい環境整備を進めるため、民間事業者と協定し公共駐車場3カ所で急速充電設備の設置した。 (達成度)予定通り設置完了し、H30.10から稼働を開始した。 ②第3次三田市環境基本計画で、市域の温室効果ガス排出量の削減に向けた率先目標(R4目標)として公用車の燃費10%向上を設定した。 (達成度)初年となるH30は、職員向け交通安全講習会(H30.10)にあわせてエコドライブの講習会を実施した。 ③兵庫県地球温暖化防止活動推進員との協力により啓発イベントを実施した。 (達成度)三田松聖高校で公開講座「触れる地球」(H30.8)、まちづくり協働センターで講演「地球温暖化と異常気象」(H31.1)を開催した。
対象経費 人件費除く :百万円	H29 予算 8	H30 予算 6	R元 予算 6		
施策関連 部課等	[まちの再生部環境共生室] 環境創造課				

成果指標等の推移							成果を踏まえた重点課題等 (令和元年度～) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和元年度 予算対応済 内容(千円)
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)								
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	目標 R3	進捗	【重点課題】 COOL CHOICE 運動の普及啓発 【詳細説明】 ・国が進める国民運動「COOL CHOICE(賢い選択)」の普及を図り、行政・市民・事業者がそれぞれの立場で、エネルギーの使用やごみの排出等を伴う日常の行動において「ライフスタイル」、「サービス」、「製品選び」等の見直しを呼びかける。 【その他の課題】 ・新たな再生可能エネルギーの調査・研究	・クールアース・デー実施事業費(77) ・次世代自動車インフラ整備事業費(805)
1 太陽光発電普及率	7.6%	7.6% (H27)	8.2% (H28)	8.5% (H29)	12.0%	○		
2 電気自動車、プラグインハイブリッド自動車の保有台数	170台	170台 (H27)	214台 (H28)	265台 (H29)	470台	○		
3								
4								
5								
6								

2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 低炭素社会実現に向けて、積極的に取り組もうとする姿勢が伺われるような施策展開が進むことを期待したい。施策として調査研究や啓発活動に努められているが、低炭素社会の構築に向けて、地域の実情に応じた地球温暖化対策は極めて重要であり、事業者の活動や市民生活に対する市のきめ細かな対策が求められる。基本計画に記載された市民・事業者・市それぞれの取り組みが着実に促進されるよう、事業の充実を期待する。

3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 近年の技術向上を踏まえ、小規模風力、小規模水力など、環境負荷が低い自然エネルギーの活用について再考する余地があるのではないか。
- (ii) 指標である太陽光発電普及率の過去3年間の伸びを鑑みれば、目標値に向けて「順調に進捗」と評価するのは難しいのではないか。また、主な取り組み項目の成果と指標の整合に留意されるとともに、事業内容の充実に取り組まれない。
- (iii) 低炭素社会の実現に向けた啓発や学習を推進いただきたい。特に、市内小中学校に発電状況を把握できる設備があるため、学校教育を巻き込んだ取り組みを展開していただきたい。

取組番号	2-20	取組名	スポーツ・レクリエーション
------	------	-----	---------------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(平成30年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	スポーツ・レクリエーションを通じて心と身体が元気になるまちをつくりましよう			①スポーツが持つ多面的な可能性へのアプローチ(8,401) ②関係団体等との新たな協働、支援体制の構築(710) ③スポーツを通じたノーマライゼーションの推進(3,631)	①多面的なスポーツ参加機会の創出 ・第30回三田国際マスターズマラソン(応募5,032人、出走4,271人)、同ファンラン(応募308人、出走278人)、市民チャレンジデー(715人参加)、第27回小学生ドッジボール大会(59チーム914人)、さんだノルディック・ウォーキングフェスタ2019 in 有馬富士の開催(412人参加)(達成度)概ね計画通りに実施できた。 ②スポーツ関連団体間の連携強化、今後の地域コミュニティに適合した地域スポーツの方向性の整理に向けた協議の準備。 (達成度)スポーツクラブ21ひょうご三田市推進委員会にて協議。 ③障がい者スポーツの推進 ・水泳教室を開催(4回/月、毎週日曜日、参加者延べ653人)。 ・マスターズマラソン運営スタッフへの障がい者の参画。ファンランの部を設置。 (達成度)事業が浸透し達成に近づいているが、より一層の市民への働きかけが課題。
対象経費 人件費除く :百万円	H29 予算	H30 予算	R元 予算		
	131	145	158		
施策関連 部課等	[地域創生部市民協働室] 文化スポーツ課				

成果指標等の推移 (進捗区分:◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)							成果を踏まえた重点課題等 (令和元年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和元年度 予算対応済 内容(千円)
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	目標 R3	進捗	【重点課題】 第2次スポーツ推進基本計画を具体化する事業展開 【詳細説明】 ・計画の5つの基本方針を推進するために①三田らしいスポーツの推進、②スポーツ「夢」プロジェクト、③高齢者スポーツスクール、④障害者スポーツスクール、障害者スポーツ協議会の設立⑤地域コミュニティの活性化を図る「市民チャレンジデー&ファミリースポーツカーニバル」を実施する。 【その他の課題】	①ノルディック・ウォーキング(800) ②スポーツ「夢」プロジェクト(505) ③・④(4,154)、障害者スポーツ競技会設立(100) ⑤市民チャレンジデー&ファミリースポーツカーニバル(853)
1 週1回以上運動・スポーツをしている人の割合	42.4%(H28)	42.4%	42.5%	40.9%	46.0%	△		
2 駒ヶ谷運動公園の利用者数	270,781人	290,049人	325,681人	338,692人	280,000人	◎		
3 スポーツクラブ21会員数の割合	12.5%	12.6%	12.7%	12.2%	14.0%	○		
4 ノルディック・ウォーキングイベントへの参加者数	-	354人	568人	1,113人	1,100人	◎		
5								

2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 多様な取り組みが展開されており、スポーツを通じたノーマライゼーションを含めて多面的なスポーツ参加の機会を創出する等、全体として評価できる。
- ② スポーツクラブ 21 をはじめ、地域に関わるスポーツの振興等については、社会情勢の変化等を踏まえた見直しも行いながら、一人ひとりの市民へのスポーツ・レクリエーションの普及に取り組んでいただきたい。

3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 本施策は、2-4「健康づくり」と連携した取り組みが必要だと考える。予算措置を含め、施策の強化を検討いただきたい。
- (ii) 市内の自然を活用した三田ならではのスポーツ大会が実施されれば、市外からの参加者も見込まれ、結果的に市の知名度向上につながるのではないかと。
- (iii) 運動をする人の割合を増やす観点からも、健康マイレージ制度のさらなる周知を進めていただきたい。